

# 学園だより

社会福祉法人 至誠学舎立川  
**至誠学園**

平成24年4月1日

〒190-0022 東京都立川市錦町 6-26-15

TEL 042-524-2601 FAX 042-524-2367

<http://shiseigakuen.org/> Email: [info@shiseigakuen.org](mailto:info@shiseigakuen.org)

発行 児童事業本部 広報委員会

今年進学する子ども、就職する子ども はばたけ 未来へ



平成23年度も皆様に大変お世話になりました。数々のご支援に感謝申し上げます。

今春高校を卒業した7名がそれぞれ就職および進学をしました。上記の写真のように、都議会議員宮崎章氏を始め、多くのご来賓方々のご出席を得て、卒園式をとり行いました。あわせて、ボランティア等としてご協力いただいた方々のご卒業のお祝いをいたしました。みなさんが巣立つ社会が平安であることを祈るばかりです。

さて、昨年8月、社会的養護の課題と将来について、国の方針が示されました。国の方針は、社会的養護の子どもたち、現在、約3万人に対して、三分の一が施設、三分の一がグループホーム・小規模施設、三分の一は里親制度としています。従来、施設中心にしていたものを三等分しようとするもので、現在施設養護を受けている子どもたちが、近い将来さらに増加することを予測しているのです。そのため、家庭養護として小規模ケアおよび里親制度による社会的養護を進めようと考えています。

至誠学園は、社会福祉法人至誠学舎立川が経営にあたっていますが、常に社会のニーズを行政施策に反映させる

パートナーとして協力しています。これは福祉法人の理念としての公益性を前提とし、要保護児童の現在および未来に向けて衣食住をのみならず、将来のよき社会人を目指す自立支援を、ご支援下さる皆様のご協力を得て進めています。こうした子どもたちへの支援として、現在、国の施策も踏まえて、仮称第三至誠学園の計画をすすめているところです。これはサテライト型としての施設の拠点となるものとして考えています。

先日、タイの政府に招かれて行ってまいりましたが、最近、日本の児童養護はどうなのか？と世界でも注目されています。現場の実践の積み上げが新しい社会的養護を作り上げていくことになるのです。今年は至誠学園60周年を迎えて、今まで蓄積した物を具現化していくことに力を入れていきたいと思っております。

どうぞ今年もよろしく申し上げます。

高橋利一 至誠学園統括学園長

厚生労働省

雇用均等・児童家庭局家庭福祉課長

高橋俊之

児童養護施設至誠学園が創立60周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

また、明治45年の至誠学舎の創立以来100周年を迎え、この間、様々な困難を乗り越えながら、子どもの保護育成に取り組んでこられました。今日までの施設関係者や地域の関係者の皆様の情熱あふれるご尽力と高い志に、敬意を申し上げます。

児童養護施設至誠学園は、先進的な養育と支援に取り組んでこられ、小さな本園と多数のグループホームを持つ地域分散型施設に転換し、また、地域の子育て支援、退所者支援など地域支援型の施設に発展してこられました。

厚生労働省においても、平成23年7月に「社会的養護の課題と将来像」をとりまとめ、児童養護施設の小規模化、地域分散化、家庭的養護の推進、専門的ケアの充実、自立支援の充実、家族支援、地域支援の充実など、取組の方針を明確にしました。

平成23年度には、小規模グループケアなどの設置要件の弾力化、里親委託ガイドラインの策定、児童福祉施設最低基準の当面の引上げ、施設長研修や第三者評価の義務化、施設運営指針、里親及びファミリーホーム養育指針、第三者評価基準の策定などを進めました。また、平成24年度予算では、30数年ぶりとなる基本的人員配置の引上げをはじめ、里親支援専門相談員の配置、自立支援の充実など、予算の大幅な増額を盛り込みました。今後とも、課題と将来像に掲げた目標の実現に向けて、努力してまいります。

これまでの施設関係者、地域の関係者各位の御努力に対しまして、感謝を申し上げますとともに、至誠学園におかれましては、今後とも、時代が求める先頭を走り、子どもたちの最善の利益のために、一層のご発展をされることを心からご期待申し上げます。

平成23年度 園内 職員専門研修

- 法政大学教授 皆川邦直先生 年6回  
「困難事例のケースカンファレンス」 上級研修
- 淑徳大学大学院教授 金子 保先生 年8回  
「法人の理念とケアワーク」 新任研修
- 山梨県立大学教授 西澤哲先生 年7回  
「入所児童の生活支援と治療的療育」  
中堅職員向け
- 法政大学教授 小野純平先生 年6回  
「入所児童の学習への支援」 中堅職員向け
- 昭和女子大教授 高橋久雄先生 年6回  
「実践力を高めるグループワーク」 中堅職員向け
- 川井尚先生(至誠大地の家臨床心理) 年2回  
「家族支援」 地域に公開
- 塩谷先生(小児科医) 子どもたちと予防接種 1回
- 高橋利一統括学園長(法政大学名誉教授)  
「ゼミナール-社会的養護の課題と未来」 年1回

職員の専門性を高める研修

外部の研修にも積極的に参加して、専門性向上のために取り組んでいます。

■QC 活動

・至誠学園から

「掃除・防災倉庫の片づけ・整理整頓」

メンバー:各職員

・至誠大地の家から

「1階フロアにおける事故の低減」

メンバー:各職員

QCとは:品質管理や業務改善のための手法で、産業界で導入されています。問題を共有した管理者と職員が、解決すべき課題を明確にして、3か月から6か月の活動期間を定め、具体的な問題解決に結びつけます。(日本福祉施設士会HPより)

■至誠学舎立川 社会福祉に関する合同勉強会  
(3/2 立川市女性総合センターAIM)

高齢事業部と児童事業部の社会福祉士の勉強会として、第1回目の事例報告会を実施しました。至誠学園からは、M ホームリーダーが発表しました。



■アメリカ研修 2/22-29



米国カリフォルニア州サンフランシスコとオークランドへ真如プロジェクト助成をいただき、視察・研修に行きました。

参加者:至誠学園職員、大地の家施設長、各職員)

北カリフォルニアベイエリアのセネカセンターでは、州政府や郡政府と協力した先進の児童家庭福祉を学びました。

■栄養士・調理員さんの専門研修

子どもたちの心や体の成長に欠かせない毎日の食事をつくってくれるのが、栄養士や調理員の皆さんです。東京都社会福祉協議会や保健所などが主催する研修に積極的に参加しています。

<研修報告より>

「満足できるだけでなく、子どもの成長が確認できる献立を」「毎日しているからこれくらいはと思わずに、調理器具は十分洗い、消毒を」「子どもが食べやすい切り方を」「調理場で作ってタッパに入れて持っていく施設、部屋に簡易キッチンしかなくて温めないで食事を出す施設があるという話を聞いて驚きました。その点、学園は対面式のキッチンで子どもたちと話が出来たり、お手伝いしてもらったりできます。」

## 地域社会に開かれた学園

### 立川市・日野市こどもショートステイ事業

平成 12 年に立川市、平成 16 年は日野市より委託事業として子どもショートステイ事業が始まりました。至誠学園では「地域の子どもとその家庭への支援」を目的に取り組んできましたが、最近では、親の疾患や様々な家庭の問題が重なっている場合があり、各市の子ども家庭支援センターや時には児童相談所と連携して、ケースの把握や必要な対応を考えていかなければならない事が多い状況です。

今年も子どもや家族の問題の事件の報道が続いています。地域の家庭を孤立させないように、また、地域のニーズに合わせた対応をとるために、地域社会のお手伝いをさせていただくためにも、継続して 10 年目(立川市)の現在、その契約内容を見直し、事業としての取り組みを充実させていかなければならないと思います。

ショートステイ担当

### 里親 養育家庭の皆様との取り組み

社会的養護に関する国の方針があらたに定められ、里親による養育に大きな期待が寄せられています。

至誠学園では平成 14 年 3 月まで続いた旧養育家庭センター時代のノウハウを維持しながら今日まで、地域里親支部(至誠くら支部)のお手伝いを続けてまいりました。この春からの国の新しい制度により、里親支援専門相談員の配置が認められるようになったため、かつて養育家庭センターのワーカーとしての経験を持つ児童事業本部長にその役を担っていただくことになりました。豊富な経験をもとに、地域の里親支援、東京全体の里親支援施策の強力な助っ人として、また学園のおこなう里親支援事業の中心としての活躍が期待されています。里親さんとのパートナーシップを掲げ、ニーズに的確に対応していけるように、職員一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。

至誠学園 施設長

### ena塾 大学進学に向けて

(株) 学究社河端社長様のご厚意で、「もっと勉強できるようにになりたい」と希望する小中学生を対象に週 1 回、4~5 人の塾の先生がボランティアでいらして下さり、テキストを用いて勉強しています。普段の生活と違って、子どもたちは一生懸命勉強しています。

### 実習生の受け入れ

今年度も社会福祉士・保育士・臨床心理士の養成のための実習の受け入れをしています。特に今年度 4 月からは、相談援助実習指導者(社会福祉士の資格取得後、相談援助の業務に 3 年以上従事した経験を有する者)であって、社会福祉士実習指導者講習会の課程を修了した者に条件が加わることから、今年度は 3 名の職員が受講し認定を受けています。

現在、法政大学、ルーテル学院大学、立教大学からの学生さんをお引き受けする予定です。

### 苦情解決システム—第三者委員の皆さま



こまったことや  
悩みごとの相談は

赤い顔文字と青い顔文字の対比、相談の重要性、委員の役割、そして委員の顔写真が紹介されています。

社会福祉法第 82 条に基づき、利用者である子どもたちや保護者等からの苦情・意見・要望に対して適切な対応に努めています。

日常的に子どもたちに「困ったことがあれば相談できる」という意識を育て、いつでも利用できる意見表明の機会として「みんなの箱」を本園、グループホームに設置して活用を促しています。

今年度の相談は、子ども同士の関係についてありました。子どもは職員との話し合いと説明の結果、得心することができました。第三者委員の皆様へ相談する案件はありませんでした。

至誠学園 施設長

### NPO エンジェルサポート自立支援プログラム終了



1/22、学園長夫妻、至誠学園施設長、GH リーダー-出席のもと、学園からの参加 3 人の子どもたちを含め、児童養護施設と里親家庭から参加した自立支援プログラム修了生をお祝いしました。

### まことらぶのクッキー ここでも大好評



写真：3/19、3/26 立川市役所で販売をしました。市民の方や市役所職員の方々が、クッキーのコーナーに立ち寄り下さって、完売でした。

スポーツ祭東京 2013 立川市実行委員会と共同してマスコットキャラクター「ゆりーと」を使用したクッキーをまことらぶのお店「リーフ」で販売することとなりました。国体の開催を市民に知ってもらい、一緒に盛り上げていくのが目的です。

まことらぶ 施設長

# 子どもたちの生活 冬

## クリスマス会 12/24

毎年恒例のクリスマス会を今年も行ないました。第1部では地域のお友達もご招待し、劇や歌など賑やかに過ごし、その後の第2部では日頃お世話になっている皆さんとお食事会をしました。



## お正月

1/1 晴天に恵まれ、元旦式を屋上で行ないました。(写真右)

錦囃子の皆さんが獅子舞を披露してくださり、頭を噛んでもらって泣いてしまう子もいました。(写真中)

1/2 書初めを行い、それぞれに新年の抱負を書きました。その後は、友の会の皆さんがボーリングや外食・買い物に連れて行ってくださり、夜は昔話でなごやかに過ごしました。(写真左下)



**勝浦年越しツアー12/30~1/3**  
年末年始「陽美勝浦の家」で過ごしました。いつもお世話になっている徳井様から美味しいお魚などを頂き、豪華な大晦日・新年を迎えることができました。

## 節分 2/3

恐い顔をした赤鬼と青鬼が太鼓を叩いて各ホームに現れました！泣いてしまう子もいましたが、「鬼はそとー」の掛け声と豆まきに鬼達も逃げていきました。



## ひな祭り会 3/3

女の子の成長を祝う「おひな祭り会」を行いました。日本舞踊の披露のあと、みんなで食事会を行ないました。



## ご協力、ご招待ありがとうございました

### サンタプロジェクト

#### ゴールドマン・サックスさま 12/10

毎年恒例の行事で、子ども達はとても楽しみにしています。

子ども達の降誕劇や歌のあとは、プレゼントを開けてみんな大喜びでした。



#### チャリティーパーティ GCM インベストメンツ (株) さま 12/7

バスの手配までして頂いてのパーティ参加でした。

子どもたちは服装もふさわしいものに整えて、参加し、きちんとお礼も言えました。



### 劇団四季ミュージカル

#### 「ユタと不思議な仲間たち」 阿部郁司郎・幸様ご招待

子ども達の感想より抜粋  
・とっても楽しくてわらってしまう場面もありました。さい後、ざしきわらしがちがう村にひっこす場面が少しかんどうしました。ゆきさんやこのショーをやってくれた人たち、本当にありがとうございました。(小2 M)



出演の阿部幸さんとロビーにて

・ふしぎだったのはざしきわらしがいろいろなところから出てくる所でした。おもしろかったところは先生が石にちがういたら、ざしきわらしがどンドン石をずらしていく所でした。ユタはさいしょは弱かったけど、がんばったら強くなれたのがすごかったです。げき、とてもたのしかったです。(小2 K)

その他にも野球観戦など、たくさんの皆様のご協力をいただきました。ありがとうございました。

あらたな出発 - 学園卒園式 3/18

今年の卒園生は9人。ボランティアで子どもたちに勉強を教えてくれたりや宿直補助の学生さんの卒業生も大勢でした。



働きながら保育の短大に進学する子ども、美容院で働く子どもとそれぞれの出発です。当日は、児童相談所の福祉司さんや地域の協力者の方がたなど、会場に入りきれないくらい大勢の方々子どもたちの出発をお祝いして集まってくださいました。

宿直補助の音大院生の方による歌のプレゼントはすばらしく、子どもたちも静かに聴き入っていました。当日は新聞社の取材もあって、とても盛大になりました。



夕方、家族の応援や学園職員の拍手での見送りを受け、涙で引越越しの子どももいて、子どもたちの新たな出発に希望を見出します。

トールペイント 児童館にて

月1回の児童館での活動です。木に好きな絵を描いてアクリル絵の具で色を重ねていきます。子どもたちは、絵の具が乾くまで、ボランティアできて下さっている澤木みゆき先生と話をしながら、次の



新しい色や好きな色を選びます。澤木先生が、子どもたちが落ち着いて作業に取り組めるように、気を配って声かけしてくださったり、次の作業へのアドバイスを丁寧にしてくださっていますので、子どもたちからは「あれ、今日は先生いないの?」という声が聞かれます。子どもたちはホームや学校とは少し違う時間を楽しんでいるようです。

学園のアクティビティ

- 絵画教室 竹中潔先生 月1回
- 音楽教室 印牧由規子先生 週2回
- 創作ダンス 秦野旬子先生 週1回
- 週末のバンド活動 卒園生の指導 週1回
- 各種スポーツ活動(学園職員の指導) 野球、ドッチボール、バレーボールなど
- ボーイスカウト、ガールスカウトの活動

子どもたちの活躍

マラソン部

6 ブロックマラソン 駅伝大会に参加 2/5

駅伝の部で見事第2位に入賞。



- ・小学高学年の部 H君6位、Nちゃん3位
  - ・低学年の部 Sちゃん(大地の家)1位、Kちゃん3位
  - ・2300mの部 N君1位、T君2位
- 「一生懸命練習したので、いい記録を次々と子どもたちが出してくれました。」と担当職員の感想でした。

立川シティハーフマラソンに参加 3/4

高校生はハーフマラソン、小学生は3キロに挑戦しました。全員完走できたことはもちろんのこと、子どもたちにとって一般の市民の方々と一緒に走るのとはとてもよい経験となりました。

サッカー部

10月の6 プロサッカー大会と11月の江戸っ子杯に出場し、6 プロサッカー大会では3位入賞しました。

小1から中学生まで20人ほどで、週1~2日緑地公園で練習しています。



子どもたちの国際交流 エジプトの行政官の皆さまと



エジプトから行政官の方々が見学にいらっしゃいました。子ども達は日本舞踊で交流し、とてもなごやかな雰囲気になりました。

学園に雪が積もった日



モンテッソーリ立川子どもの家(園内幼児教育)



3月3日(土)はひな祭り会でした。みんなでお雛様になったり、習っている日本舞踊を披露したりと楽しく過ごしました。そのあと、子どもたちは見に来て下さった保護者の方々と外出し、一緒にお昼を食べたり、買い物をして過ごしました。

錦六会・至誠学園立川の合同防災訓練 3/3

地域との防災協定を結んでいます。錦六会、至誠ホーム、至誠学園、至誠大地の家との合同の防災訓練を消防署の協力のもと、今年度は至誠ホームで行いました。

午前中の2時間の間でしたが、起震車や炊き出し訓練などもあり、先の震災の記憶も新たに、真剣な訓練となりました。

ボーイスカウト立川第四団 冬の活動



(写真左) スキーに行ってきました。  
(右) 2/10 オーバーナイトハイキング

今年も地域のお子さんも含めてみんなで20キロ程度を歩きました。夜7時に育成会長の激励を受け出発。明け方2時までの行程で、途中リーダーの支援を受けつつ、学園から参加した小学5年生から中学生までのスカウト15名も全員、完歩することができました。

ガールスカウト 東京第158団 緑化募金活動



25年にわたる緑の募金活動が評価されました。

卒園生友の会情報

■成人式

今年も新成人になった卒園生の皆さんが挨拶にみえました。学園長夫妻をはじめ職員で祝いました。



学園の職員に着付けをしてもらっての記念撮影。



可能性を求めて日舞に挑戦

卒園生のエピソード

聴覚障害を持っている卒園生のMさんは「和服を着る習い事がしたい」と千波流家元、千波一景先生のご指導で日舞を始め、昨年5月に初舞台を踏みました。先生は聞こえないMさんに何度も歌って聞かせ自身の声帯にMさんの手を当てさせ、指先でリズムをつかませました。骨伝道ヘッドホンも使いました。

今年のお正月に至誠学園を訪れ、1/29の都内で催された「お舞い初めの会」には学園長夫妻が出席しました。周りの皆さんの温かな心遣いで続けることができているのです。音楽にぴったりあって踊っているのに驚くとともに、彼女の一生懸命な姿と明るさに感動しました。

至誠大地の家 保護者とともに

大地の家では、子どもたちが家庭復帰できるよう、積極的に保護者の方々に働きかけています。

・ヨガ

DVDを見ながら、昨年度は原則月1回、職員も参加して保護者の方々と体を動かします。その後、みんなでお茶を飲んでおしゃべりです。

・ピザ窯づくり - 作業の途中で

耐熱煉瓦を頂いたので、保護者のお父さんに声をかけて、ピザ窯づくりをしました。お母さんたちには大地ホールで食事をつくってもらい、作業終了後にみんなで一緒にいただきました。

・ソシオエステ

日本エステティック協会の方により、心理的な癒し効果をも含んだエステということで、今年度から始めます。

## 後援会のお知らせ

毎年、多くの方々から後援会費をご送金いただき心より感謝を申し上げます。今後とも変わらぬご支援を、どうぞ宜しくお願いいたします。

(至誠学園後援会会長 三田鶴吉)

また、新規のご入会も随時受け付けております。子どもたちのために、あたたかいご支援いただけますようご入会をお願いいたします。すでにご入金いただいている方には、重ねてのご案内を失礼いたします。

会費の納入は下記の口座にて承ります。

< 連絡先 > 至誠学園後援会事務局  
立川市錦町 6-26-15(至誠学園)  
TEL 042-524-2601

< 郵便振替口座 >  
口座番号 00140 - 2 - 356681  
口座名 至誠学園後援会

< 銀行口座 >  
三井住友信託銀行立川支店  
(4/1より銀行名変更)  
口座番号 普通 7902588  
口座名 至誠学園後援会

**児童養護実践学会に参加** (2/18,19)  
 児童養護実践学会で至誠学園と大地の家からそれぞれ職員が実践の発表をしました。

「児童養護分園サテライト型の実践とその課題  
 グループホームの小規模施設化とその将来像」  
 至誠学園 GH ホームリーダー

「生活心理臨床の取り組みを進めていくために  
 生活の中の心理ケアと発達検査・  
 知能検査の臨床的活用」  
 至誠大地の家 治療指導員  
 主任

**新任職員研修**



今春採用の 11 名の新任研修(3/7-9)を行いました。  
 4 月から至誠学園と至誠大地の家に配属になります。

**高橋利一統括学園長の近況**



3/2 の誕生日に、子どもたちや職員の写真入りの時計を子どもたちの自治会会長から笑顔で受け取る学園長  
 <写真左>

今年も新任研修では学園長ならではの、学園の歴史や法人の理念を中心に社会福祉全般にわたる講義をしました  
 <写真右>



**今後の予定**

至誠学園 60 周年記念式典  
 4 月 29 日(日) 至誠学園にて  
 第一部 式典 11 時~12 時  
 第二部 園遊会 12 時~13 時半  
 第 9 回児童虐待防止月間記念セミナー  
 11 月 9 日(金) 立川市市民会館小ホール  
 18 時より 20 時半

**グループホーム探訪シリーズ 第 4 回  
 「エンゼルハイム」**

エンゼルハイムは多摩都市モノレール万願寺駅の近く、土方歳三の墓のある石田寺の近くの閑静な住宅街にあります。



主に学園からの自立を控えた男子高校生を中心とした 6 人の児童が生活するグループホームで、今年度も 5 人の子どもがエンゼルハイムより大学進学や就労のため自立していきました。



写真左： 外観  
 写真右： リビング

ホームでは各自自分の時間を大切に、自立を目指した生活を心がけており、自立に向けて各自頑張っています。

男子高校生中心のホームなので活気にあふれ、時には騒がしく注意されることも多いですが、子どもも大人も毎日明るく楽しく元気に生活しています。

ホームリーダー

**子どもたちの進路状況**

今年は、学園を巣立つ子ども達が 9 名(卒園の時期が異なります。3 月の卒園式は 7 名)です。在園期間間はそれぞれですが、自分自身で決めた進路に園全体でエールを送りたいと思います。

- ・Y くん: 美容室
- ・S くん: 飲食店
- ・T くん: 建設会社
- ・I くん: 飲食店
- ・T.T くん: 大学
- ・T.A さん: 飲食店
- ・S さん: 短期大学
- ・K さん: 短期大学
- ・S.M さん: 専門学校

**第三者評価を受けました。**

今年も 2 月~3 月にかけて、IMS ジャパンの方が子どもたちの意見(小学生以上は聞き取り、幼児は観察)や職員の意見をそれぞれ聞き取りました。

**編集後記**

根川の桜が満開になりました。今年は寒い日が続いても続いたので、桜が咲くのを子ども達と待ちわびていました。9 名の卒園生の巣立ちを見送り、それぞれの子ども達が学園に来た日を思い出しました。厳しい冬のような辛く悲しい時もやがて来る春の為に、小さなつぼみは耐えてきたのでしょうか。泣き顔だったあの顔が、桜の様に希望に向かって誇らしく輝いて見えました。皆様の温かなご支援・ご協力に心より感謝いたします。

広報委員会 M